安全 安心 高品質を武器に！
グローバル化する日本の食品

国内の人口減、少子化による需要減少は食品業界将来市場の大きな課題となっている。解決の一つが輸出、海外生産のグローバル戦略だ。TPPは米国の新政権で困難になったが、日本の農林水産物・食品の輸出総額は2014年に57億9,824万ドル（前年比2.4%増）と増加した。日本の全輸出に占める割合は0.8%で、それまでの５年間は横ばい状況。ただ、円建てベースでは6,117億円と前年に続き、為替の関係で増加した。

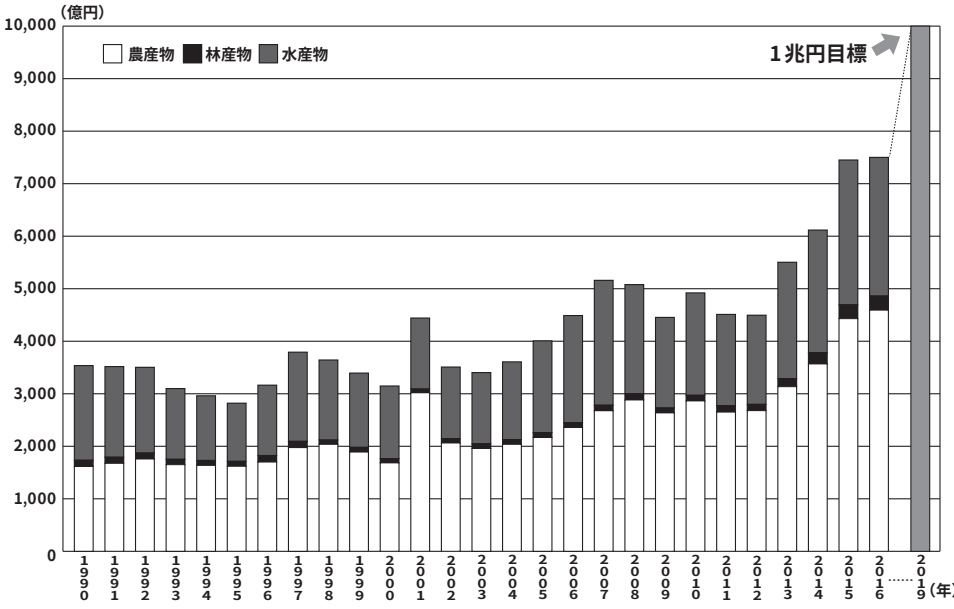
輸出先はアジア地区が73.8%、北米15.3%、ヨーロッパ6.5%（2016年）の構成になっている。

輸出、輸入の主力商品は農畜産、水産品が多く、加工食品は日本酒をはじめとしたアルコール類が430.0億円で１位、２位は調味料で395.7億円、３位が清涼飲料水194.3億円と続く（2016年）。これに、和食の世界遺産登録や、寿司・ラーメンの外食の普及などの日本食ブーム、さらには、2,000万人を超えた来日観光客でのインバウンド効果からの海外での日本食品の普及が後押しになり、安心安全と高品質の日本製品への信頼から粉ミルク、酒類、調味料、麺類、緑茶など品目数が拡大し、量も増加している。また、食品企業の海外生産拡大や海外販売での積極的な展開が見られ、政府が目指す農林水産物・食品の輸出額19年に1兆円へ追い風が吹いている。

図表３　農林水産物の輸出実績（2016年金額上位20品目）

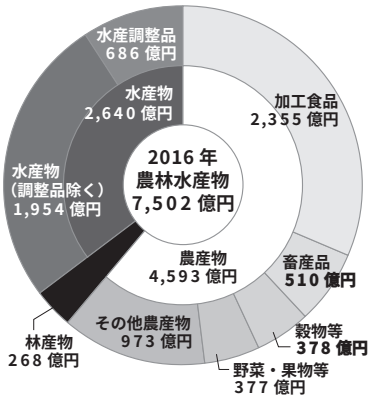
農林水産物順位	品目	数量単位	金額（百万円）	前年比（%）
1	ホタテ貝※1	t	54,834	92.8
2	アルコール飲料	kℓ	42,996	110.2
3	真珠（天然・養殖）	kg	30,381	95.2
4	ソース混合調味料	t	27,372	103.6
5	たばこ	t	21,873	92.7
6	清涼飲料水	kℓ	19,431	98.4
7	菓子（米菓を除く）	t	18,162	102.6
8	さば※2	t	17,986	100.5
9	播種用の種等	t	14,623	96.6
10	牛肉	t	13,552	123.1
11	ぶり※2	t	13,473	97.4
12	りんご	t	13,299	99.3
13	緑茶	t	11,551	114.3
14	かつお・まぐろ類※2	t	9,794	71.1
15	豚の皮（原皮）	t	9,737	108.2
16	練り製品	t	9,272	113.5
17	乾燥なまこ	t	8,676	84.2
18	丸太	千㎥	8,466	89.9
19	スープ　ブロス	t	8,334	118.5
20	植木等		8,033	105.6
上位20品目計（A）			361,845	99.4
農林水産物合計（B）			750,214	100.7
A／B（%）			48.2	

資料：財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成
注　：※1＝生鮮・冷蔵・冷凍・塩蔵・乾燥
※2＝生鮮・冷蔵・冷凍

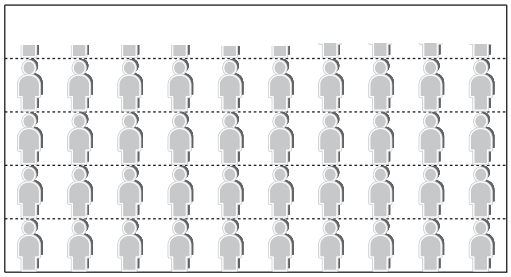


図表１　農林水産物・食品の輸出額の推移

資料：財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成



資料：財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成

図表２　農林水産物・輸出品の品目別内訳

平成28年人口(総務省統計局人口)